

広島大学大学院(博士課程前期)
法学・政治学プログラム入学試験(令和8年8月実施)

問題 専門科目 [政治学]

問題 規範的政治理論の観点から、多文化主義及び間文化主義が社会統合において有する意義と課題について論じなさい。

出題の意図

専門科目 [政治学]

規範的政治理論の観点から、多文化主義及び間文化主義が社会統合において有する意義と課題について論じることができるかを問う問題である。

解答においては、まず政治理論における自由、平等、正義、市民権などの規範的概念の意義を説明した上で、多文化主義及び間文化主義が現代の多様化した社会の統合をいかに構想しているのかを整理することが求められる。

多文化主義については、少数派文化集団の文化的権利の保障や文化的多様性の承認を通じて、社会統合の正統性を確保しようとする点を説明できていることが重要である。他方で、間文化主義については、多数派と少数派の相互作用や文化間対話を重視し、社会全体の共通文化や市民的連帯の形成を促進しようとする特徴を理解していることが求められる。

さらに、多文化主義と間文化主義の共通点と相違点を踏まえながら、文化的多様性の尊重と社会統合の実現がいかに両立しうるのかについて論じることが評価のポイントとなる。例えば、ウィル・キムリッカの多文化主義理論や、ジェラルド・ブシャーの間文化主義が重視する文化間対話の理念を踏まえつつ、現代民主主義社会における社会統合のあり方について各自の考えを適切に展開していることが望ましい。